

PSカード普及率99%

阪神港海コン協会 理事会

【阪神】阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は10日、兵ト協で理事会を開催した。

冒頭、ビジター受付所運営業務について報告。6日に近畿地方整備局に10月分実績集計を提出した際、運営業務の今後について協議したことに触れた。今後の運営について、

ソールス条約のテロ対策としてPSカードが設けられ、同カードを保有していない運送会社に対して、ビジター受付所が設置されたと説明した。この結果、阪神港ではPSカードの普及が99%までになり、ビジター受付所を利用する運送会社も少なくなってきたと述べた。阪神港ではPSカードを取得するのに3保険（社保・労災・雇用）加入が必要条件で、全国的にもモデルケースとなっている。しかし、他の一部の港では社員証も無く何の身分を証す物すらない状態で、港に入場する



発言する山口会長

ケースも多くソールス条約のテロ対策に当てはまっていないケースも多いようだ。山口会長は「今後もPSカードの普及を進めていくことを考えていきたい」とし、30日に協議の場を設けるとした。また、大阪港運協会表敬訪問では、一度表敬訪問することを報告。次回理事会で報告する予定。

輸入貨物（コンテナ）の汚れがある場合のターミナルの対応について、大阪港ではコンテナの汚れを理由にターミナルで下ろしてもらえないケースが存在していることを報

告。神戸港では汚れたコンテナでもターミナルで下ろすことが可能だが、大阪港ではそうはいかず、持ち帰ることがあり、こういった行為が輸送効率を低下させ、労働時間の長時間につながるという指摘。大阪港でこういったケースになれば、同協会に報告するとした。既に労組には同問題について報告しており、コンテナの汚れが原因でターミナルでコンテナを下ろすことができない場合は、状況把握を行うため、同協会に連絡することを決定した。

（佐藤弘行）